

5 災害調査 (6) 新潟県糸魚川市柵口地区雪崩調査(2012. 6. 24)

研究代表者	雪氷防災：上石 勲	実施期間	平成 24 年度
研究参加者	土木研究所雪崩地すべり研究センター：伊東靖彦、池田慎二、畠田和弘 森林総合研究所十日町試験地：竹内由香里、遠藤八十一 新潟大学：和泉 薫		

〔目 的〕

2012～13年冬期に新潟県糸魚川市柵口地区で雪崩が発生して多くの樹木が被災されているのが確認された(図1)。当箇所では、昭和61年1月26日に大規模表層雪崩が発生し、柵口集落の13名の方が亡くなっており、その後、各種の対策工が設置された。調査は土木研究所、森林総合研究所、新潟大学と共同で実施した。調査により今後の雪崩リアルタイムハザードマップの開発研究、雪崩対策工の効果検証などに資することとした。

〔実施内容〕

平成24年6月に土木研究所雪崩・地すべり研究センターにより、新潟県糸魚川市柵口地区で雪崩による樹木の被災が確認された。雪崩の流下範囲、規模(高さ、幅)、速度等の情報を得るために6月24日に現地調査を実施し、おもに樹木被害の状況について調査を行った。

〔成果と効果〕

現地調査では多くの被災樹木が確認された(図1)。その後、ヒソノマタ方面での被災樹木も確認された。発生区の急斜面の下には雪崩誘導工が設置されており、この施設により雪崩の一部がヒソノマタ方面に誘導されたものと推定される(図2)。



図1 樹木被災状況

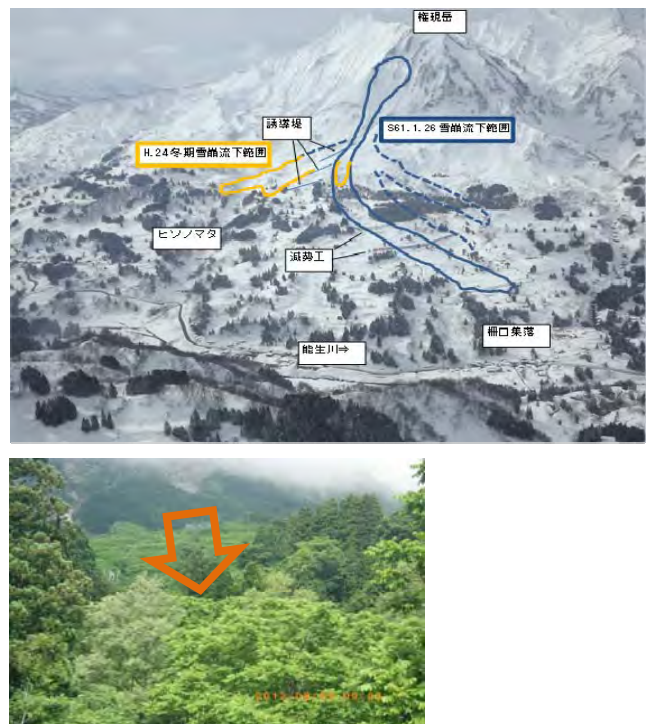


図2 雪崩流下状況(糸魚川市柵口地区)
上：流下範囲
下：ヒソノマタ方面から発生区を望む

〔行政機関等への貢献〕

調査結果については、新潟県土木部、糸魚川市能生支所など昭和61年の雪崩災害後に各種の対策を講じてきた関係機関に情報として流された。